

安全に運転し続けるために

危険な場合もあるとはいえ、多くの高齢者の方は、年を重ねても安全に運転し続けています。まずは、安全に運転を続けるために、できることを心がけましょう。

【高齢者講習】

運転免許の更新に伴う高齢者講習は、自分の運転技術の変化を客観的に見つめ直すとても良い機会です。講習では座学のほか、視力検査、実車運転、ドライブレコーダーを用いた運転の見直し等が行われます。

【運転免許取得者教育】

自動車学校などでは運転免許更新時以外でも講習(有料)を受けることができます。いつでも受講できますので、運転に不安を感じたら利用してみましよう。

【補償運転】

完全に運転をやめるのではなく、「日中だけ」「市内だけ」「夏季だけ」といったように、無理のない範囲に限定することや、「運転中に音楽やラジオは聞かないようにする」といったことも一つの方法です。ルールなどについては家族で相談してみましよう。

【安全機能付きの車両を選択】

最近では、自動ブレーキなどの安全機能が搭載されている車両も多く開発されています。安全機能に頼りきって油断をしてはいけません。車を選擇するポイントとしてみてはいかがでしょうか。

高齢者が運転することの危険を知り、老いによる変化を冷静に受け入れて認めることが安全運転への大切な一歩となります。みずから過信せず、他者の声も受け入れながら、無理をせず安全な運転を続けましよう。



↑高齢者講習では実車運転をドライブレコーダーで記録し、どのような運転をしていたかを見直します。

↓視力検査の際には、視野や夜間視力、動体視力も検査します。



「運転免許返納」という選択肢

高齢期の運転を巡るトラブルを避け、安全に日々を過ごすための選択肢の一つとして、運転免許の返納があります。しかし、郊外に住んでいたり、高齢者のみの世帯であったりする場合、生活の足がなくなるのが受け入れられないこともあります。

これまで当たり前のように車を運転してきた人にとって、車がなくなり生活は想像しにくいと思います。が、公共交通機関を利用する、家族に送迎を頼むといった工夫でこれまでどおりとはいかずとも、生活を続けている方もたくさんいらっしゃいます。

運転経歴証明書 交付手数料：1,100円

警察署などでは免許返納時や返納後に、運転免許証とよく似た「運転経歴証明書」を発行しています。これは、免許返納直近5年間の運転に関する経歴を示すもので、運転免許証と同じように公的な本人確認書類として使用することができます。

運転免許返納の手続き自体は、警察署で書類を一枚提出するだけの、とても簡単なものです。しかし、本人に返納の意志がなければ、家族や警察があつても強制的に取り上げることは難しいものでもあります。便利さと安全をはかりにかけ、まったく迷わずに安全を確保するという人は少ないでしょう。しかし、万が一事故を起こしてしまった場合は、生活の不便などと言ってはられない状況になります。自身の能力を自覚し、もしもの事態を想像して、車を手放すという選択ができるのは、免許を持っていない本人だけなのです。

運転免許返納の手続き自体は、警察署で書類を一枚提出するだけの、とても簡単なものです。しかし、本人に返納の意志がなければ、家族や警察があつても強制的に取り上げることは難しいものでもあります。便利さと安全をはかりにかけ、まったく迷わずに安全を確保するという人は少ないでしょう。しかし、万が一事故を起こしてしまった場合は、生活の不便などと言ってはられない状況になります。自身の能力を自覚し、もしもの事態を想像して、車を手放すという選択ができるのは、免許を持っていない本人だけなのです。

息子に週に1回、買い物に連れて行ってもらっています。あらかじめ買うものを決めるようになったので無駄遣いも減りました。子どもと定期的に顔を合わせる機会ができたこともうれしいですね。



市内の路線バスに100円で乗れる「敬老パス」を利用しています。歩く機会が増えたからか体の調子もいい感じだね。



移動販売車や荷物の配達サービスを活用しています。最近では品ぞろえも増えてとても便利になりましたよ。



車の維持費や税金、保険料が浮いたから、タクシーを使うようになって思ったほど負担は増えなかったなあ。



「運転手卒業」その日を笑顔で迎えるために

この仕事をしていてうれしいことは、安全運転を達成した受講者の方と、また次の講習でお会いすることです。高齢者の方の運転は身体機能の低下により危険が伴う場合もありますが、私自身は安全に気をつけて、元気に運転し続けてもらうことが一番大切だと考えています。私は、受講される皆さんが自分自身の親だと思つて講習や指導をさせてもらっていますので、受講者の皆さんも指導員を家族だと思つて、頼ってもらえればと思います。

吉田 幸智子さん(51歳)

空知自動車学校 技能検定員 業務部 教習・営業担当

バイクが好きだったことがきっかけとなり、保育士から自動車学校指導員に。前職の経験を生かした、優しく受講者に寄り添った指導には定評があります。また、全国で119人、道内では3人しか認定されていない「高齢運転者支援士補」の資格を持ち、高齢者に対する適切な対応や、認知症などについての知識も併せ持つ、高齢運転者をサポートするプロフェッショナルです。

危険なものとしてみなされやすい高齢者の運転ですが、順法意識の高さや、困難を解決するための知識・経験の豊富さといったような、優れた一面も持っています。このような良い面を生かしつつ、無理のない範囲で安全な運転を続ける努力をするとともに、車を手放したあとの生活についても、本人だけではなく家族全体で早めに考え始めることが大切です。

「運転手卒業」は、時期を自分で判断しなくてははいけないからこそ、誰にとつても難しい問題です。今は高齢者ではない方にも、その日はいつか必ず訪れます。「最後まで安全な運転を続けることができたね」と家族と共に笑顔で祝えるよう、自分の運転について、もう一度振り返ってみましよう。

免許を手放すその日まで「安全なカーライフ」を過ごしてもらえるようサポートをしています

皆さんは運転の際、ご家族やお友達に「今の運転、ちょっと危ないよ」と言われたことはありませんか。この「ちょっと危ない」、実はこれ「すごく危ない」なんです。気にしない方や、カチンと来てしまう方もいらっしゃるかとは思いますが、これは運転されている方を大切に思い、守りたいという気持ちから出てくる言葉です。「ちょっと」というオブラートに包んで伝えてくれた方の気持ちを考えてみてください、ということをお高齢者講習の際にはお話しさせてもらっています。

最近の高齢者講習は、これまでの一方的に教える「ティーチング手法」から、受講者の方にも思いやお気持ちを話していただきながら共に進める「コーチング手法」に変わってきています。受講されている方のお気持ちに寄り添い、問題点や解決方法への「気づき」のお手伝いができるよう心がけています。最近では高齢運転者の増加から、各地で高齢者講習の待機が問題となつていますが、空知自動車学校には経験豊富な指導員が多数在籍していますので、**待たずに受講することができます。**運転技術の確認のためにも、ぜひご利用いただければと思います。

また、高齢となつたご家族の運転に不安を感じている方がいらっしゃるかもしれません。ご相談に乗ることもできるかと思ひますので、よろしければ講習時、一緒にご来校ください。



インタビュー

各サポートの問合せ先

- ◆高齢者講習、運転免許取得者教育
⇒空知自動車学校 Tel23-1101
- ◆運転免許の更新、返納
⇒滝川警察署 Tel24-0110
- ◆敬老パスの発行
⇒市介護福祉課 Tel28-8028
- ◆認知症などの相談
⇒市地域包括支援センター Tel28-8029

【特集】 高齢者の運転を考える おわり